

2015年上期の回顧と下期の展望

ブラジル日本商工会議所

食品部会

2015年8月20日(木)

目次

◆ 2015年上期業界動向

◆ 原・燃料動向

◆ 2015年下期の展望

必ず復活！ブラジル経済

～日系企業はどう立ち向かうか～

2015年上期の業界動向

◆ 国内市場概況

- ・2014年末から始まった経済情勢の悪化が消費マインドに大きな影響を与え、食品市場は内食、外食市場ともに低調。
- ・2014年上期はW杯効果による市場拡大があったため、多くの分野で数量が前年割れを起こした。
- ・低価格指向が強まり、嗜好品への支出を抑制する傾向が出ている。
- ・輸入食材の販売は、レアル安による輸入価格の上昇により厳しい状況にある。

2015年上期の業界動向

<飲料>

- 発酵乳飲料 98%(数量ベース前年比)
- 果汁飲料 108%(同上)
- 粉末ジュース市場は前年比107%(金額ベース)

<調味料>

- 調味料市場は前年比108%(金額ベース)

2015年上期の業界動向

<コーヒー>

- ・国内消費は前年比103%と増加
- ・低価格指向が顕著に表れている

<即席めん>

- ・食数ベースで前年比96~97%
- ・これまでの成長を牽引してきた中低所得者地域での落ち込みがみられる

2015年上期の業界動向

<タバコ>

- ・価格政策により、低価格指向の消費者の獲得に成功、順調な成長を確保

<日本食材>

- ・全体としては成長しているが、輸入販売は大きく前年を下回る

2015年上期の業界動向

<加工食品等向け素材>

- (加工油脂)チョコレート原料のココアバターの価格低下により、代用油脂販売は苦戦
- (香料)飲料向けは不調であったが、香粧品向けが好調で全体として成長を確保

2015年上期の業界動向

<種苗>

- ・高付加価値商品（F1ハイブリッド）の需要がさらに成長

<輸出>

- ・食肉、濃縮果汁の輸出はレアル安が貢献し好調
- ・特に鶏肉、豚肉は日本向けが好調に推移

2015年上期の業界動向

< 外食産業 >

- 低価格ファストフードは前年比プラス
「すき家」新店舗をオープン
- 中価格帯、高価格帯のレストランは消費マインド低迷の影響を受ける

2015年上期の業界動向

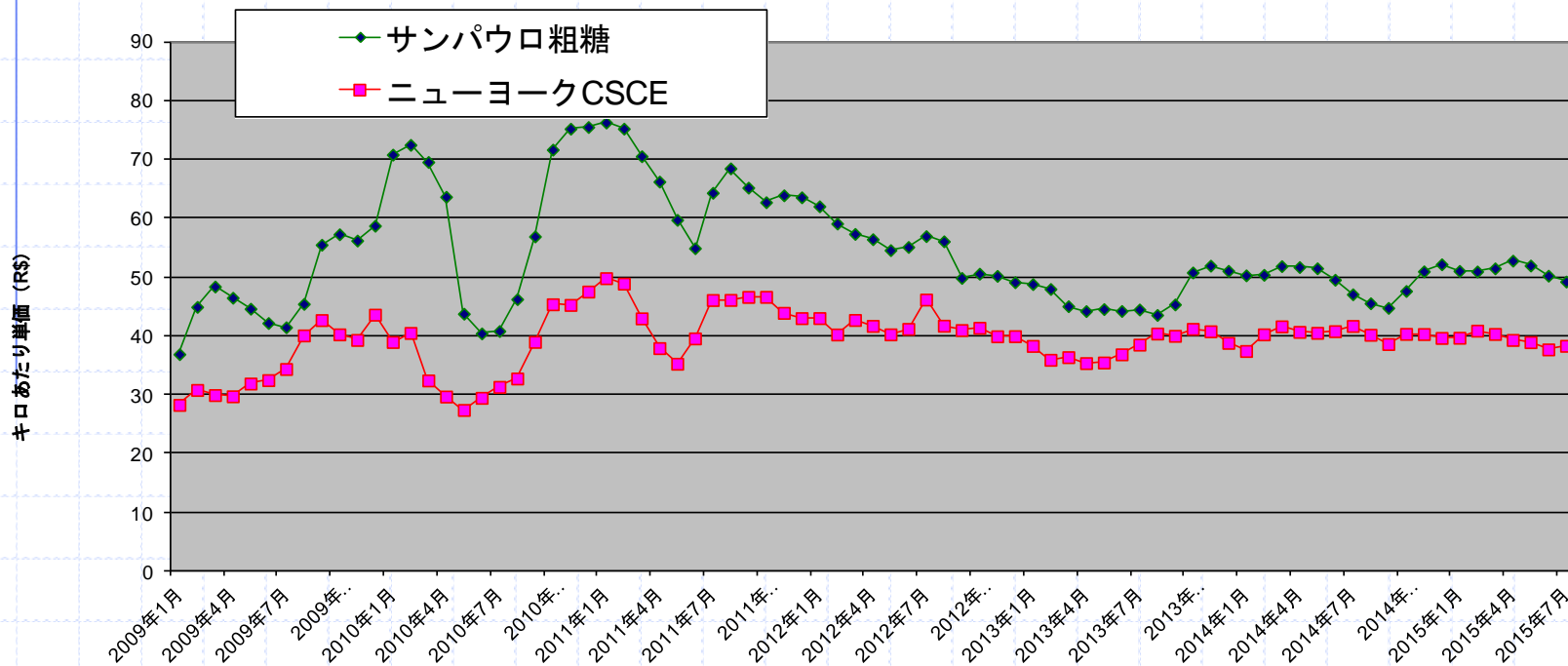
◆ 利益面の状況

- 輸入原材料の値上がり-マイナス要因
- 原材料の国際価格低下傾向-プラス要因
- 電気代、人件費が収益へ大きく影響

原料動向

砂糖相場の推移(2009～)

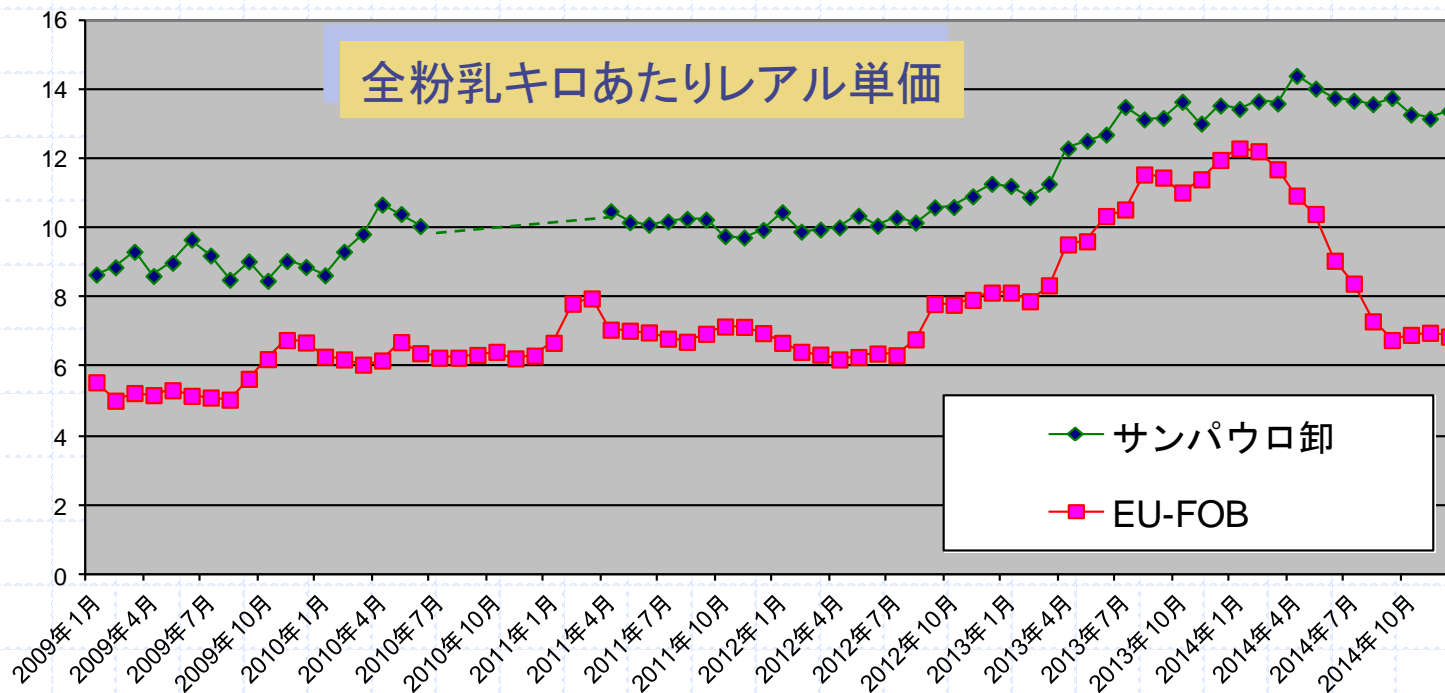
粗糖キロあたりリアル単価



◆2009～2011年にかけて高値かつ乱高下を続けていたが、2012年からはサトウキビ生産増に伴い相場は下落かつ安定してきた。

原料動向

乳相場の推移(2009～)

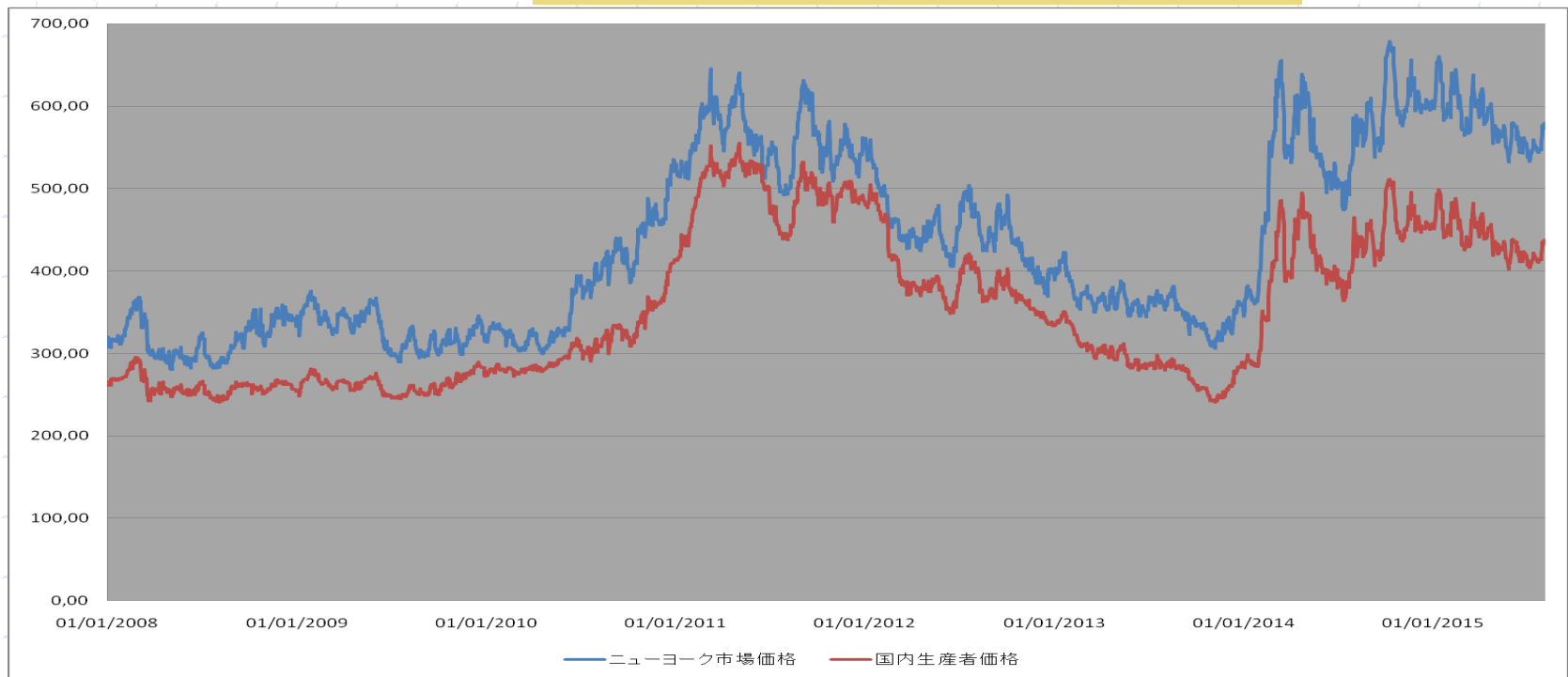


◆ 乳製品価格は2013年には一大供給地域オセアニアで干ばつによる大不作となり高値のピークを付けた。2014年に入ってから供給増大策が功を奏し国際的には大きく下落、2012年以前の水準に戻ったものの、国内への影響は限定的。

原料動向

コーヒー相場の推移

アラビカ種60kg現物渡し価格推移(R\$)



◆2015年上期、ブラジルの国内相場は450～500リアルと比較的高値で推移した。実際のところドル建てのニューヨーク国際相場はブラジルの作柄回復見通しにより大きく値を下げているが、リアル安が国内相場を下支えしている格好。現物に関するニュースが乏しい中、下期の注目材料もブラジルレアルの動向。

燃料動向

- ① サンパウロ州の電気スポット価格は300リアル台に低下している。
- ② 各社の電気代コストは前年を大きく上回っており、収益への影響大。
- ③ サンパウロ州の渇水問題は本質的な解決は図られていない。再燃の危険性あり。

2015年下期の展望

必ず復活！ブラジル経済～日系企業はどう立ち向かうか～

(1)消費マインドの低迷は当面継続する。

→新製品の発売による市場開拓

→買収・提携などによる将来の成長への布石

(2)様々な要因によるコスト上昇。市場環境が厳しい中、販売価格への転嫁が困難で、短期的に収益が悪化

→消費者の動向、社会的な変化を的確にとらえる

→変化の時期を構造変化や体質強化のチャンスと見て取り組む